

市民活動展で紹介した千葉県の環境保全活動団体の環境学習についてⅢ

－市民活動展「市原の里山・緑を守る森人たち」－

小川かほる

1 はじめに

市民団体の環境保全活動の広がりを促進するため2009年度から環境保全活動団体等と連携し、市民活動展を当センターの環境学習コーナー他に開催している^{1,2)}。

2011年度には国際森林年に合わせて、市原市、NPO法人ちば里山センターと共催で、市原市内を中心に里山保全活動に取り組んでいる10の市民団体と連携し、市民活動展「市原の里山・緑を守る森人たち」を開催した。

2 市原市内の里山保全活動

かつて里山は燃料や緑肥、建材や道具の材料を得る場として、人の暮らしと深くかかわり、その結果として里山の生態系が成り立っていた。燃料革命以降、経済的価値がなくなり、就業者の高齢化や経済環境の変化などにより、管理が行き届かない荒廃林が広がっている箇所もみられる。

平成15年5月に施行された千葉県里山条例では、土地所有者等と里山活動団体が協定を締結し、それを知事が認定する「里山活動協定認定制度」を設けている。これにより、関係者が安心して里山の整備・活用を行うことができ、県内の里山整備が計画的かつ継続的に推進されている。

市原市は東京湾岸から房総丘陵まで含み、南部には森林が広がりその面積は君津市に次ぐ県下第2位で、県土全体の8.5%を占めている。山林は南部・中部ゾーンを構成する山地・丘陵地と、村田川・椎津川の源流域である台地にかけて広がっているが、荒れた森林も多く、市民等による里山保全活動が活発な地域である。また、市民団体はその保全活動やフィールドでの自然学習の機会を提供し、環境学習にも貢献している。

3 展示の経緯

市原市の環境保全活動団体については、市原市環境管理課が「市原市ビオトープ保全活動推進事業」により市民団体を支援している。また、同農林業振興課は、「市原の里山を守る交流会」を開催し、里山保全活動団体のネットワークを推進している。そこで、市原市から、里山保全活動団体およびビオトープ保全活動団体に市民活動展への参加を呼び掛けた。複数の市民団体の活動を一堂で紹介する展示は、市民活動展として初めての試みであった。

参加団体は、いちはら里山クラブ、市原トンボ池の会、NPO法人市原ネイチャークラブ、市原米沢の森を考える会、おとずれ山の会、コスモ石油株式会社千葉製油所・NPO法人千葉自然学校、NPO法人市津・ちはら台自然楽校、ふれあい千葉、風呂の前里山保存会、いちはら里山クラブ(能満)、いちはら里山クラブ(高坂・安須)、いちはら里山クラブ(天羽田)、市原米沢の森を考える会、市原トンボ池の会、コスモ石油株式会社千葉製油所・千葉自然学校、ユース・サポートセンター友懸塾、いちはら里山クラブ(古敷谷)。

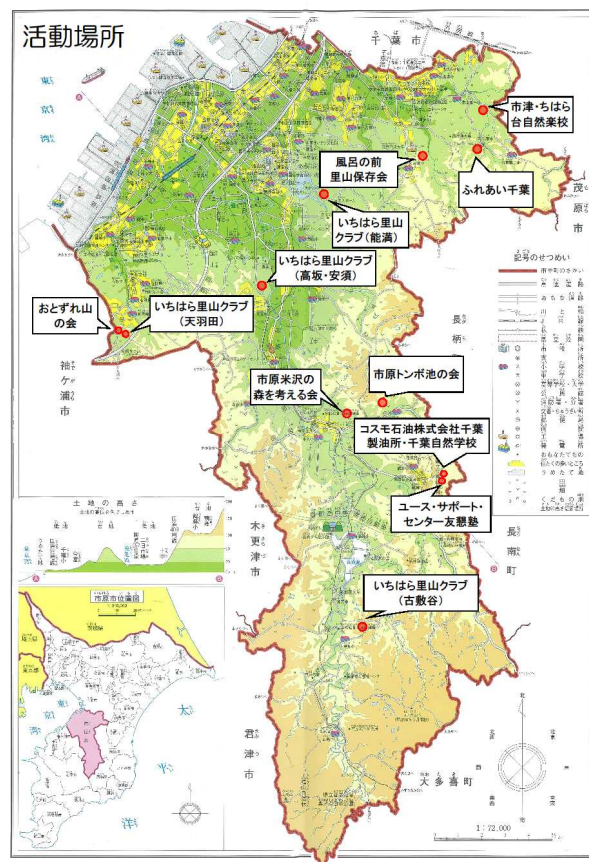


図1 参加団体の活動場所(市原市作成)

会， NPO 法人ユース・サポート・センター・友懇塾の 10 団体であり，その活動地点を図 1 に示す。

市民団体には活動の写真と団体情報（団体名称／連絡先／会の目的／保全している里山の特徴／活動のきっかけ／活動内容／課題／市民へのメッセージ／その他）の提供を依頼した。筆者がそれらを編集して展示パネルを作成した（図 2）。

多くの方に展示を見ていただくために，アウトリーチとして市原市内で開催されたイベント会場にも出展し，計 6 か所で開催した（第 3 章の 3・1(3)②参照）。

4 里山保全活動団体の目的・内容・課題

4・1 活動の目的

10 団体中 4 団体が，里山保全に加え子どもたちの環境教育や自然体験活動などを目的として活動している。特に NPO 法人ユース・サポート・センター・友懇塾は森林の癒し効果と仲間といっしょに活動に参加することで，逮捕・補導された少年の立ち直りを支援している。市原の自然を楽しんでもらえる居場所づくりに取り組む団体や，カタクリ等の希少植物の保全に取り組んでいる団体もある。

4・2 活動のきっかけと内容

団体の活動のきっかけは，ゴルフ場開発から自然環境を守りたいとする地主さんに共鳴して活動を始めた団体や，地域の山や地域のシンボルツリーの荒廃を見かねて活動を始めた団体，リタイア後の生活設計としてボランティア活動への参加など，様々であった。

杉林・雑木林の間伐・枝打ち，下草刈り，樹木の植栽，竹林の整備などの里山の保全活動だけでなく，カタクリ自生地の復元作業，道の整備や観察デッキ・ベンチの設置，その里山に隣接する耕作放棄地の整備など，多様な活動に取り組んでいる。

さらに，保全しているフィールドを活用しての自然観察会，里山保全の啓発活動，地元小学校の環境教育の場を提供するほか，林業に必要な安全講習なども含め，環境学習の担い手となっている。

4・3 課題

多くの団体の課題が「人」である。会員の高齢化に伴い後継者の育成が課題とする団体が 4 団体であった。会員の研修や人材確保，スタッフやボランティアを求



図 2 パネル例（おとずれ山の会）

めている。次に多かった課題は，「活動資金」であった。また，地域の人との交流，他団体・企業などの関係機関との「連携・協働」を課題としている。

5 成果

10 団体ではあるが，市原市内の里山保全活動団体を同じ形式で紹介したことにより，会場では「市原市は，山の活動をしている団体が多い」などの声があり，来場者にインパクトを与えることができた。本展示が市民団体等の里山保全の取組の周知に役立ったといえよう。

また，イベント会場では，異なる出展団体の会員同士の対話がすすみ，相互理解が図られた。

謝辞

市原市内の里山団体の状況をご教示いただき，本展示開催のきっかけを与えていただいたいちばら里山クラブの風間俊雄代表に深甚の謝意を表します。また，市原市環境管理課および同農林業振興課の職員の皆様のご尽力に感謝します。